



再送信間隔および再試行回数の設定

- 機能情報の確認 (1 ページ)
- アクセス ポイントの再送信間隔と再試行回数設定の前提条件 (1 ページ)
- 再送信間隔および再試行回数について (2 ページ)
- アクセス ポイントの再送信間隔と再試行回数設定方法 (2 ページ)
- CAPWAP の最大伝送単位情報の表示 (CLI) (3 ページ)
- アクセス ポイントの再送信間隔と再試行回数設定例 (4 ページ)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報と注意事項については、ご使用のプラットフォームとソフトウェア リリースに対応したリリース ノートを参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

アクセスポイントの再送信間隔と再試行回数設定の前提条件

- 再送信間隔と再試行回数の両方とも、グローバルと特定のアクセス ポイント レベルで設定できます。グローバル設定では、これらの設定パラメータがすべてのアクセスポイントに適用されます。また、特定のアクセス ポイント レベルで再送信間隔と再試行回数を設定すると、値はその特定のアクセス ポイントに適用されます。アクセス ポイント固有の設定は、グローバル設定よりも優先されます。

再送信間隔および再試行回数について

デバイスとアクセスポイントは、Control And Provisioning of Wireless Access Points (CAPWAP) の信頼性の高いトランスポートプロトコルを使用してパケットを交換します。各要求に対して、応答が定義されています。この応答を使用して、要求メッセージの受信を確認します。応答メッセージは明示的に確認されません。したがって、応答メッセージが受信されない場合は、再送信間隔後に元の要求メッセージが再送信されます。最大再送信回数に達しても要求が確認されないと、セッションが終了し、アクセスポイントは再度別のデバイスに関連付けられます。

アクセスポイントの再送信間隔と再試行回数の設定方法

アクセスポイントの再送信間隔と再試行回数の設定 (CLI)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device# enable	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ap capwap retransmit interval interval_time 例： Device(config)# ap capwap retransmit interval 2	すべてのアクセスポイントに対してコントロールパケットの再送信間隔をグローバルに設定します。 (注) 間隔パラメータの範囲は 2 ~ 5 です。
ステップ 4	ap capwap retransmit count count_value 例： Device(config)# ap capwap retransmit count 3	すべてのアクセスポイントに対してコントロールパケットの再試行回数をグローバルに設定します。 (注) 回数の範囲は 3 ~ 8 です。
ステップ 5	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーション モードを終了できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	ap name Cisco_AP capwap retransmit interval interval_time 例 : Device# ap name AP02 capwap retransmit interval 2	ユーザが指定した個々のアクセスポイントに対してコントロールパケットの再送信間隔を設定します。 (注) 間隔の範囲は 2 ~ 5 です。 (注) ap name コマンドを使用するには、特権 EXEC モードを開始しておく必要があります。
ステップ 7	ap name Cisco_AP capwap retransmit count count_value 例 : Device# ap name AP02 capwap retransmit count 3	ユーザが指定した個々のアクセスポイントに対してコントロールパケットの再試行回数を設定します。 (注) 再試行回数の範囲は 3 ~ 8 です。
ステップ 8	show ap capwap retransmit 例 : Device# show ap capwap retransmit	CAPWAP の再送信の詳細を表示します。

CAPWAP の最大伝送単位情報の表示 (CLI)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device# enable	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	show ap name Cisco_AP config general 例 : Device# show ap name Maria-1250 config general include MTU	デバイス上の CAPWAP パスの最大伝送単位 (MTU) を表示します。MTU は、送信されるパケットの最大サイズ (バイト) を指定します。

関連トピック

[CAPWAP 再送信の詳細の表示 : 例 \(4 ページ\)](#)

[最大伝送単位情報の表示 : 例 \(4 ページ\)](#)

アクセスポイントの再送信間隔と再試行回数の設定例

CAPWAP 再送信の詳細の表示：例

次のコマンドを入力します。

```
Device# show ap capwap retransmit
Global control packet retransmit interval : 3
Global control packet retransmit count : 5
```

AP Name	Retransmit Interval	Retransmit Count
3602a	5	3

最大伝送単位情報の表示：例

次に、デバイスのCAPWAPパスの最大伝送単位（MTU）を表示する例を示します。MTUは、送信されるパケットの最大サイズ（バイト）を指定します。

```
Device# show ap name cisco-ap-name config general | include MTU
CAPWAP Path MTU..... 1500
```